

当院はこの5月、ついに開業10年を迎えました。ここまでの道程を支えてくださったすべての方に深く感謝申し上げます。クリニック通信31号が出来ましたのでご一読ください。

### 院長ブログより 《開業10年を迎えて》

光陰矢の如し、ついにクリニックもこの5月1日で開業10周年を迎えました。そして私も、とうとうこの秋に還暦を迎えることとなります。

他人からはよく、とてもそんな歳には見えないなどと驚かれたりおだてられたりしますが、自分でもあまり実感が湧かないと同時に時の流れの無常さというものを感じます。

さて、私だけではないでしょうが、どうして医師になったのかと尋ねられることがしばしばあります。

自分や家族が大きな病気をして医師に助けもらったとか、不知の病で親友や恋人が亡くなった経験がきっかけになったというのはよくある話ですし、ある意味美談にもなるようですが、私の場合は、正直言ってそのような経験がありません。

私は中学卒業頃までは特に医師を目指していたわけではなく、親戚にも誰一人として医療関係者はいませんでした。

でも親や幼馴染に言わせると、私は幼少時から、考えることや計算すること、知的なことにすごく興味がある子供だったようです。

確かに私は、人体とか生き物とか、地球とか宇宙とか、地理とか鉄道とかに関することが大好きでした。誕生日などのプレゼントには、いつも小学館の図鑑シリーズや辞典を買ってもらい、本棚に並んだその本の数々は私にとっての宝物でした。逆に普通の小学生がほしがらうようなおもちゃやグローブ（持ってはいましたが）などにはあまり興味がなく、授業も体育より社会や理科のほうが好きだった、そういう意味では、ちょっと変わった子供だったと思います（笑）

ですから叱責を恐れずにいうと、医学というものが、人の命を助けたいとか、世の中の役に立ちたいというような崇高な理念を実現するものというより、自分の知的興味を満たしてくれる学問だと考えた、というのが医師をめざすようになった正直なきっかけかもしれません。

もちろん当時から医学部への入学は難関でしたから、つらい猛勉強に耐えるというモチベーションも自然に高まったともいえます。

そうは言ってもまだ弱冠18歳、漠然とした気持ちで飛び込んだ医学の道でしたが、大学6年間で様々な経験を積むにつれ、医師という職業を生涯の仕事にすることの本当の意味を実感するようになったのです。

専門課程での最初の関門である解剖実習は衝撃的でした。私のいた大学では、4人ずつのグループごとに献体されたご遺体2体を数か月かけて解剖していきましたが、まだ成人式を迎えただけの年齢で、自分の親よりも長い人生を生き抜いた物言わぬ遺体にメスを入れるということに心底畏れをいただき、胸襟を正す気持ちになったことは忘れられません。

5年生になると臨床実習が始まりましたが、整形外科をローテーションした時のこと、ある小さな男の子が入院していました。指導医が私たちにその子の右脚のレントゲン写真をみせて、「この子の病気はなんだと思う？」と尋ねました。それは整形外科の講義のスライドで見た、ある病気の写真にそっくりでした。私が恐る恐る「骨肉腫…でしょうか？」と

答えると、彼は少し悲しげな顔をして頷きました。

数週間の実習が終わって他の科に移っていた私は、どうしてもその子のことが気になり、ある日整形外科病棟を尋ねましたが、はたしてその子の右脚は、太ももの真ん中から切断されていました。こうなることは理屈では分かっていたとはいえ、私は本当に衝撃を受けました。

そのほかにも、初めて手術の見学をしたとき、初めてベッドサイドで患者さんに聴診器を当てたとき、初めて夏休みを利用して外の病院に実習に行ったときなど、様々な機会を経て、医学というのは心を持った人間が相手であるという意味で他の自然科学とは一線を画していること、そしてこの仕事がいかに大変で、けれども達成感のある仕事かということを実感していったのです。

ここ最近の不景気や、伝統的な終身雇用や年功序列制度の崩壊、不安定な雇用情勢などで、医学部志望者はますます増えているようです。資格さえあれば食いはぐれることはなく、高い社会的地位や安定した収入が得られる（これも最近では怪しいのですが…（笑））という理由でしょう。

しかし、それだけの動機で医師になっても、協調性、倫理観、使命感、忍耐力などがなく職務を全うすることはできませんし、適性を欠く医師は今後淘汰されていくに違いありません。

私とて、前述したとおり決して人に自慢できるような気持ちで医学の道を志したわけではなく、あまり偉そうなことは言えませんが、長くこの仕事をやってきて感じるのは、日進月歩の医学の進歩についていくためにはもちろん、病気だけでなく人を診るという能力を磨くためにも、謙虚な気持ちを忘れず、一生勉強に励まなければならないということです。

そして何よりも、医師も人生経験をいろいろ積んだり、苦労を重ねたほうが良いというものも間違いありません。

大学受験で第一志望を落ち、縁もゆかりもない岐阜という地で親元を離れて一人暮らしをしたこと、卒業後7年目で念願の米国へ研究留学して世界中の様々な人々と交流したこと、卒業後10年もしてから背水の陣で研修医に逆戻りして日本の心臓血管外科のメッカである東京女子医大に移籍したこと、そして50歳を前に意を決して開業したこと、等々、苦労も重ねましたが、全ての経験、全ての出会いが、私の血となり肉となっています。

特に女子医大での、家族4人を支えるにはあまりにも薄給の基本給4万5千円という待遇で、帰宅できるのは週に1回あるかないか、というまさに血反吐を吐くような研修生活は、二度と経験したくないほど過酷なものでしたが、その後の様々な苦労を乗り越える強い精神力を私に与えました。

他の仕事の経験はないものの、30年を超える医師人生を経て、自分としてはこの仕事に向いていると感じますし、今となってはこの仕事を選んでよかったと思います。

「お前はサラリーマンは無理だから、医者になれ」と背中を押してくれた両親、その後の人生の節目々々で「我儘な」選択を辛抱強く？支えてくれたかみさんや愛娘たち、弟家族や親戚、開業後はクリニックを盛り上げてくれているスタッフたち、他の医師仲間、その他数え切れないほど多くの人々に、今となっては心から感謝するばかりです。



## 今月の話題 「須磨離宮公園」



みなさん、このゴールデンウィークはどこへ行かれましたか？

人混みが苦手でお出掛けしていない、出掛けただけ人多くて疲れたという方も多いと思います。

もう行かれたこともあるかと思いますが、須磨の離宮公園がおすすめです。5月11日～30日までローズフェスティバルをしています。少し早めではありましたが、早速行って来ました!! とても良い香りでのんびりと散歩することができました。

大阪湾が一望でき、開放的で花と緑いっぱいの癒しスポットです。「王侯貴族のバラ園」があり、春秋に約180種4000株のバラが咲き誇り、ぼたん、花しょうぶ、紅葉、梅と四季を通じて楽しめます。また癒しのお散歩だけでなく、フィールドアスレチック「子供の森・冒険コース」や「児童遊園」もあり、家族みんなで過ごせます。

ゴールデンウィークでお疲れの方、どこにも行くことができなかった方、是非のんびりお散歩しながらバラの香りに癒されてみてください。  
**(看護師MCより)**

## じむこらむ「子育て初心者より」

去年の夏に息子を出産しました。子育ては想像をはるかに上回る過酷さですが、周りの皆様のおかげで何とかやっております。

子どもを連れて歩いていると、通りすがりの方に声をかけていただくことが多く、うれしい限りです。「かわいいわね」、「男の子？女の子？」などあたたかく話しかけてくださるのですが、そこでよく付け加えられるのが「母乳？」の一言。

今でこそ良質な粉ミルクがたくさん出回っていますが、昔は恐らくそうでなかったでしょう。「母乳？」の言葉に、見ず知らずとはいえ息子が栄養たっぷり育てているかどうかを気にかけて下さっている優しい気持ちを感じられました。

ただ、母乳が出ているかどうかというのはとてもデリケートな部分の話であって、その話をされるのをとても嫌がるお母さんも非常に多いようです。母乳でも粉ミルクでもそこに何も差はなく、赤ちゃんは栄養たっぷり、もちろん愛情もたっぷりもらって大きくなっています。

気にかけていただく側が申し上げて恐縮ですが、「母乳？」という一言は飲み込んで、ぜひお母さん方にねぎらいのお言葉をかけてさしあげていただけたらと思います。  
**(事務スタッフY(元O)より)**



## お知らせ はしか(麻疹)ワクチンについて

わが国で一時はほぼ根絶されていたと思われるはしか(麻疹)が、沖縄での発症をきっかけにまた少しずつ流行の兆しを見せています。

はしかは感染力が強いうえに、合併症としての肺炎や脳炎になることもあり、また妊婦さんが感染すると流産や死産の可能性が高まります。過去に麻疹に罹患した人やワクチンを2回接種している人は感染の可能性はほぼありませんが、それ以外の方が患者さんと接すると感染する可能性が高くなります。ワクチン接種が最高最良の予防策ですが、抗体ができるまでに約2週間はかかりますので、早めに受けることが望まれます。

なお現在、今回の件で全国的に麻疹単独ワクチンが不足しており、代替として麻疹風疹(MR)ワクチンを使うこともできます。風疹に罹患した人や風疹抗体がある人でも接種には問題ありません。

☆クリニック通信のバックナンバーをご希望の方は、受付でお申し出ください。  
院長ブログはHPからリンクしていますので、他のブログもぜひご一読ください。

おおかど循環器科クリニック

循環器科・呼吸器科・外科

院長 大加戸彰彦

〒651-0055 神戸市中央区熊内橋通 7-1-13 神戸芸術センタービル内医療モール 4F

TEL 078-855-9151 FAX 078-251-5033

e-mail aki-ohkado@ohkado-heart-clinic.com

HP <http://www.ohkado-heart-clinic.com>

診察時間 午前9～12時・午後4～7時 木・土曜日午後、日祝日は休診